

繪本  
豐臣  
勲功  
記

八編  
八

2209  
78



特  
13  
2209  
78

繪本豊臣勲切記八編卷之八

目録

黒田藏救植田攻小西敗

附 阿州着船

上方勢攻大麻山太被惱

附 仙石義徳

後着入間尻と火水の智恵を裁す図

基次立五材を用て城を攻る図

豊臣八編卷之八

目

黒田探水路陷大麻山城 付 百貫戦死

荒木が刎鎗謀て入間尻を撃圖

兩軍勢加一宮開大合戦 付 秀長危難



繪本豊臣勲功紀八編卷之八

東京 櫻澤堂山 刑補



黒田藏植田攻小西紋属阿只着取  
復懇話くして。豹虎よ里強しといふとも。豈あえて風と  
起きの能あらんや。然布どよ小西孫九郎仍長ハ長船主  
殿の助云は繞る。七月二日の寅の上刻植田の城は攻  
進る。先陣ハ長船主殿表右左弟。二陣ハ小西孫九郎仍  
長兩軍合せて四千餘人植田の城へ推進。是バ黒田孝高  
ハ。後陣又備え。後着基次ハ。百餘人雲母坂の陰に埋伏  
す。這嶋植田の城中より。細川源左弟。徳吉小兼て謀合  
款と十分又勾引倚せ。塵をせんと。沫嚙と呑。結り返て

侍西之。袴紀とる上。方勢。柵際まで。退くと。推進せ。喊と作  
て。柵角。播と。播去。松去。本。戸佐十郎。植田。城の一。番。陰と  
号。呼。二。回。棟。の。陰。お。振。く。面。も。筋。ら。む。柵。て。入。バ。お。是。小  
続。て。吾。も。く。と。統。進。で。三。重。の。柵。と。越。え。く。勢。破。り。一。時  
は。遠。口。と。乘。破。ら。んと。暮。地。小。攻。登。る。と。細。川。源。左。衛。門。ハ。  
お。も。ふ。圖。は。敵。と。引。倚。せ。時。分。ハ。よ。し。と。晴。号。の。左。衛。門。と。根  
唱。せ。バ。城。名。一。吐。は。鼓。と。作。り。智。流。と。撃。お。ま。こと。電。鼓。の  
如。く。或。ハ。大。木。大。石。と。抛。菟。く。お。や。ま。し。り。の。ま。ぞ。先。は。進  
ま。し。駛。率。輩。續。く。お。あ。つ。て。撃。柵。が。是。過。半。ハ。疲。負。死。人  
と。あ。る。長。船。小。西。大。に。驚。き。斯。ハ。謀。計。は。陥。さ。れ。り。る。朽  
憾。さ。よ。と。鑿。断。と。あ。し。今。ハ。志。田。の。目。筋。も。あ。ま。バ。退。ま。も

退。ま。む。死。ね。や。く。と。激。音。紀。操。菟。く。攻。電。る。暮。び。暗。号  
の。旋。揮。廻。せ。バ。喊。の。聲。ハ。方。子。登。紀。美。く。と。推。捕。回。む。長。船  
小。西。警。備。あ。し。倭。僮。小。礼。紀。細。川。得。り。と。佐。隊。一。同。小。統  
懸。あ。し。城。門。須。と。推。開。き。大。將。源。左。衛。門。正。解。又。馬。と。進。て。  
四。角。八。面。は。撃。て。也。ま。バ。背。門。より。ハ。國。右。甚。舌。清。馬。と。踏  
ら。せ。斬。て。出。千。變。万。化。と。播。紀。く。一。個。も。餘。さ。む。撃。て。捉  
ま。し。と。攻。着。る。こと。烈。し。く。ま。バ。小。西。乃。長。今。ハ。右。や。籠。中。の  
名。の。通。出。べ。き。路。も。あ。く。右。と。く。危。ふ。り。り。ける。所。ハ。本  
戸。佐。十。郎。馳。來。り。小。西。と。救。ふ。て。命。か。ら。く。右。側。丸。例。は  
逃。退。く。長。船。至。殿。ハ。此。破。と。看。る。よ。里。も。後。方。が。先。云。又。和  
入。て。今。ハ。あ。ん。の。面。目。あ。つ。て。り。命。と。全。く。退。く。べ。き。城。將

細川源左兼つと撃拵で。勝負と一時は決せんぞと。元章  
 目高て馳進る馬前。誰が撃出を多統とや。長船主殿が  
 胸板成。水もたまらぬ撃抜るは馬より墮て死てり。浮  
 田が残名撃罩まれて。死せるもの教志を。這响黒田  
 孝高へ。隊伍を固めて。終も勅るを。城番の軍と看獲る不  
 り。小西の長續とありて。黒田が陣へ輝轟る。孝高隊伍  
 と尤右に領て。敵名を中二技客を。尤右より自勢と探出  
 せ。其際もあらせむ。細川元章。自方と懋ま。追来り。小西  
 が勢と追逼て。斬首さんと乱突せるを。黒田が勇名三子  
 孫人。細川が勢と行過し。量限と威合せ在際もあはむ。雲  
 母坂の陰に炮鳴。埋伏あし。る後。復亦各清分。又百

孫騎東谷西林より。紀露是。四面の林に預てよ。枯葉燒  
 州と積重るる分。あせへ一時は火と放つ。も。喊と作て  
 突發し。りせむ。勝誇るる城兵輩。東西南北に。迷惑。後路  
 正糾。露出で。攻着る。それむらり。浮田七右衛門。拔  
 原七郎。右弟。つが。幸万。孫人。怒潮の如く。沸て出。細川一隊  
 と。中二。捕調。割し。ハセ。と。接記。り。色。バ。了。得。の。城。將。源。九  
 兼。門。も。既。に。死。と。覚。悟。あ。し。死。憤。を。發。し。て。戦。ふ。所。へ。城  
 主。長。号。我。が。右。右。清。耐。自。勢。と。率。て。撃。て。出。幸。く。細。川。を。救  
 出。し。十。死。一。生。の。虎。に。と。遁。を。遠。く。城。中。へ。退。入。ら。んと。せ。  
 黒田懋。一。く。指揮。あ。し。て。忌。投。あ。せ。んと。焚。め。き。け。せ。と。も。

右兵衛尉を強く拒抗で。城門と固く用ける由急。是まで  
 ありと信勢と纏り。陣面よく一返さるり。信城中は細  
 川元章。深く謀て敵兵と塵とせんと思ふ。國と異田が  
 又初が。故わらると悟念又懐ひ。今一戦して生死と  
 茲不。決せんむの。と怒る。右兵衛尉志をく。疎  
 めて。本國より加勢と乞請。故と海外へ返返さんより外  
 ありと。彈機既又決らば。大將元親の在陣らる。大  
 西白地へ驅馬と達。加勢の陣と乞らる。彼國も秀長秀  
 次の兩將既又渡海。合戦の最中をば。他國へ救も出  
 がとく。伊豫又在らる。信祝の方へ。植田の加勢と言送り  
 いら。バ。信親即時又承知して。横波へ加勢又來らるる

が。植田の城より二里隔て。西北の山は陣と結び。狼烟と  
 沖て城中へ加勢の來り。通知とあり。旗當標を多く推  
 標。款又軍威と示し。城中斯と表る。將率偕不  
 款び。饒も合戦の准。倭專より。て。饒と窺ひ待。上  
 言勢も山の。款の加勢の。かたる。城の四方の  
 囚と解。二三所程退て。柵と固う。一壇と深う。陣と搦ふ  
 る。大と嚴重。不あり。信將と集めて。軍機又造ぶ。然らば。小  
 救。小西乃長。長。紀。守と。謀合。せ。技。薙。あ。して。救。撃。け  
 る。が。却て。信祝。が。謀。計。小。臨。入。ら。ば。浮。田。黒。田。の。法。軍。勢。ま  
 て。隊。暴。く。故。ら。ば。總。放。軍。も。造。ぶ。べき。哉。後。是。が。奇。妙。の  
 壹。隊。伍。と。り。て。信。親。が。勢。と。喫。受。ら。る。由。急。各。城。中。へ。退。揚

豊臣討ノ経卷之八

たりそと小も懲む。小西再三不覺と取る。女ららむ  
 既に軍法も行なはるべき哉。田が仁意の陪解によ  
 り。その案よりて圍きりり。斯て亦茲又所及の撃隊と  
 て。大和。大納言。秀長卿と大将とあり。副将より近江中納  
 言。秀次卿。おと。隨ふ。個より。八。降須賀長門守。正勝。同。彦  
 右。清。つ。家。政。後。臺。佐。渡。守。守。虎。堀。九。清。つ。督。秀。政。一。折。盛。物  
 直。盛。倭。軍。艦。又。八。増。田。右。衛。門。尉。長。盛。導。示。士。又。八。仙。石。権  
 兵。衛。秀。久。る。と。り。つ。業。内。を。又。命。せ。ら。む。折。別。尼。が。崎。よ  
 り。癸。帆。志。て。法。別。須。本。又。稍。暫。く。船。待。と。して。あ。り。け。る。が。  
 秀。次。卿。も。一。隊。又。あり。總。勢。於。合。六。万。餘。騎。須。本。の。浦。又。陣  
 營。と。連。ぬ。數。子。艘。の。艘。艦。と。船。舳。家。の。旗。當。標。陣。幕。風。標。

船。旛。その。紋。不。と。着。て。や。む。バ。五。三。花。臺。の。陽。桐。ハ。い。え。ぬ  
 と。知。る。き。本。陣。より。て。九。輪。樓。三。龜。甲。幟。須。賀。万。字。立。本。凡  
 音。籠。と。り。急。三。拍。俣。陪。從。の。陣。殿。又。ハ。三。浦。三。引。梶。田。菱。小  
 堀。丁。子。ハ。陰。又。あり。大。屋。の。行。拔。山。本。ハ。四。石。墨。中。路。の。左  
 井。幹。又。右。井。幹。小。田。切。枯。枝。青。山。濱。三。宅。輪。房。喪。鶴。の。丸。中  
 根。ハ。茗。荷。の。抱。合。七。夏。目。が。表。さ。る。菊。井。折。續。て。永。田。の。四  
 目。結。お。も。ひ。く。の。家。中。又。色。七。色。混。雜。暴。き。浦。風。不。吹。ふ  
 び。う。一。時。刻。く。又。金。鼓。と。あり。天。声。地。音。又。破。序。と。個  
 べ。て。目。冷。し。り。り。り。結。陣。あり。浩。る。不。へ。内。府。より。加。反  
 吉。川。小。早。川。畠。田。浮。田。倭。後。海。して。所。後。後。三。國。の。軍。の。注  
 伸。勝。利。の。よ。し。と。告。ら。む。り。り。也。急。二。卿。と。叙。法。大。將。う。ち

豊臣記八編卷六

五

警て去来さらば。海上風波暴くとも。運滞又迄む。加茂  
 原田又軍切とて奪をえん。快業出せと各々燦焦。當日  
 ハ五月初の六日。豫と揚させ。纜解うせ。須本の浦と突帆  
 あり。阿波と嵩て。持進る。佐も向方の阿波國と。長曾我が  
 防禦。又ハ。まづ北泊。北泊ハ。板東郡。小戸の岬。又あり  
 あり。又東條九宗。名清。初ハ。五右衛門。守宗。おなりし。三千騎  
 きて。固より。松本津。よも城と築き。三好の先鋒。東條。國  
 名清。守。名。紀。守。と。籠。金。最。も。手。先。の。城。を。ま。す。バ。別。勇。の。武。士  
 と。撰。り。其。勢。不。子。餘。人。と。ぞ。供。一。の。文。の。城。又。ハ。江。村。孫。右  
 衛門。答。忠。名。清。を。可。條。人。忠。余。の。城。又。ハ。一。の。文。の。城。又。ハ。江。村。孫。右  
 衛門。孫。守。熊。若。守。豆。守。と。初。ハ。源。助。不。子。餘。人。と。て。ま。ら

せり。將。長。為。我。親。ハ。本。國。土。佐。と。出。馬。して。阿。波  
 大。西。卿。白。地。の。城。又。對。邊。守。好。々。々。を。よ。く。三。方。の。對。陣。と  
 固。む。然。る。又。土。佐。の。一。國。ハ。四。玉。の。うち。も。殊。又。要。害。よ  
 き。地。あり。亦。西。條。豫。の。うち。も。森。多。宇。和。の。二。郡。ハ。幽。谷  
 高。炭。多。く。して。外。より。入。り。と。難。き。地。あり。殊。又。小。笹。の。志  
 げ。と。る。山。又。て。三。里。の。山。較。大。切。の。所。を。ま。す。バ。播。磨。郡。榎。多  
 土。佐。の。中。村。又。吉。良。九。宗。と。宰。城。を。ま。す。バ。東。口。阿。波。の。國  
 那。賀。海。郡。の。二。郡。ハ。倭。備。の。地。を。ま。す。バ。牛。波。郡。尾。上。又。番。守  
 我。親。親。泰。と。在。城。を。ま。す。バ。それ。より。海。郡。宮。食。郡。根。甲。浦  
 中。の。浦。ハ。土。佐。の。安。藝。々。々。あり。根。又。到。る。まで。ハ。一。日。行。程  
 大。切。の。所。を。ま。す。バ。守。兵。を。盡。て。ハ。樞。不。慮。う。ら。む。ま。つ。と。甲



の浦より土呂野山まで。十餘里が陸人煙終るる險路  
 として。一騎の山越るも。備敵海防境より出入る。  
 是を大指の要隘ありとて。土別長尾の守備として。四男  
 右衛門左衛門三男とハ孫あり三男ハ盛親と隊將として。  
 小野宗景南内庄左衛門と副て。幸万餘人甲浦に出陣を  
 さしめ。親類を力と勸せて。防戦をべしと。指揮を佐へ  
 佐六阿別大西へ。土佐より七里の山越えて。要害堅固の  
 穀不をば。元親も。互左陣して。三國の守備を密固む。  
 此地ハ尤も土阿隈隈の正中土として。法方へ傳音の便  
 宜の地あり。大西の白地より。伊豫の水津口一五里西渡  
 十餘里あり。佐六阿別大西の城ハ。阿別殿の城より。山お

えをば。三里十五あり也。元親針後と謀合せ。植田の  
 城又右左衛門尉元之。細川源左衛門兼左衛門の城。長尾我  
 利兵衛と力と合しめて。大西の羽翼をうむ。まつと  
 西渡波の香川氏へ。元親の次男。三弟。次弟。親明と。養子  
 たりし。めける。又因香川と。つて。防がしめ。長尾の城。主  
 國吉甚左衛門。二子。餘人。又て。守らしむ。元親ハ二弟。餘人  
 と率して。白地の城。又在て。備及合戦の蹶蹶と結と。去る  
 又。備及攻撃の上。方勢。大軍と。もつて。阿波國へ。攻將よ  
 一。元ハ。最も。平原。易攻の地。され。兵と。用る。又。上利。あら  
 一。如何。又。も。款と。南方。の。險。地。又。警。急。悩。む。べし。と。智。謀。の

元親、渡辺の勅諭と察断、佐賀に渡りて、阿波に  
 呼招、敵の強方と禦せん。遊軍、又備へしむ。其の圍き  
 茲、又秀長、秀次の兩大將、及その餘の諸將、達も、教子、被り  
 て、風波と業切、阿波の泊、又船出、這、不、又、東条、九、平、兵、  
 清、柵、鹿、角、橋、と、結、か、ま、え、弓、矢、銃、と、き、び、一、く、備、へ、敵、あ、ぎ  
 よ、せ、あ、バ、殺、発、せ、ん、と、侍、又、か、ど、あ、く、蜂、頭、賀、屋、堂、堀、仙、石  
 が、艦、隊、先、を、率、て、ち、の、は、く、不、と、陸、へ、ハ、世、も、上、紀、ま、ど、と  
 大、炮、小、炮、い、ろ、く、の、箭、と、射、出、撃、出、正、悪、又、あ、つ、て、防、ぎ  
 り、ら、也、也、先、乘、船、危、又、着、え、り、の、代、昂、智、又、富、く、一、柳、監  
 物、徳、隊、又、後、ま、て、據、進、り、ら、が、防、禦、あ、る、方、へ、向、ち、ん、ら、り、  
 西、又、押、と、出、し、ら、る、山、より、上、く、バ、易、の、ら、ん、と、撓、振、整、し

て、西岸へ、舊地、又、據、切、と、降、須、賀、目、早、く、此、と、あ、て、あ、き、一  
 柳、の、軍、勢、へ、よ、き、上、場、と、足、忌、し、ぞ、自、分、の、秘、も、あ、の、方、へ、  
 快、據、進、せ、よ、と、急、又、指、揮、あ、し、必、と、喚、て、推、切、ん、ら、が、降、須  
 賀、ハ、大、勢、あ、り、一、柳、ハ、小、勢、あ、り、也、忌、一、柳、の、兵、軍、が、半、分  
 あ、り、り、その、雨、と、突、進、推、進、正、先、又、上、場、降、須、賀、意、ま、そ  
 阿、波、の、國、の、一、邊、案、と、呼、ち、り、く、奔、し、く、隊、伍、と、押、発、し、  
 先、隊、又、偵、え、一、殺、百、の、多、流、東、条、が、陣、の、接、合、より、擊、募、り、  
 攻、犯、る、不、可、得、の、東、条、九、平、兵、來、も、ま、あ、り、情、で、あ、け、る、哉、  
 法、勢、一、交、不、船、と、乘、附、怒、潮、の、渚、と、卷、摺、如、く、千、方、万、面、よ  
 り、推、進、り、せ、バ、東、條、等、も、堪、ら、ざ、し、て、右、横、左、横、又、散、れ、し、  
 本、津、と、當、て、ぞ、放、走、さ、る、去、は、又、よ、つ、て、総、軍、殘、ら、ざ、泊、の

津又忌和赤一。在く所くと放火して。撫養小水陣と結指  
せらば被將と集て城攻の陣儀とぞ迄ぐれける

上方勢攻大麻山大被惱 属 仙石義徳

世徳も非といまべりうむ。城をも群とあはれけり。堤とく  
づまありものと元親自力と強一と。山海の険と據む  
とも。天よく助けて征伐を成ると。いりてり。防ぎ果せば  
きや。然れども上方の徳軍勢三方より攻る中も。阿次  
上陸の陣勢ハ。六百餘人ありり。由え。廣くもあはぬ崖  
岸と。次取又登来りつも。松書又本陣と居られけるハ。秀  
長秀次の両方あり。それ又續て陣須賀岩壘。一柳仙石  
増田倫邦も山も陣殿と連ぬ。旌旗力陰半空と馳騁。

軍威廣大なる況又。後別後海の徳大将田等とさき。二万  
石の軍勢を率ひ。入坂城。大坂と記ハ。非あり。して松書  
あり。大将の本陣不弛参り。着陸の賀と連りり。あぞ。両々  
大又歓悦せらば。徳將又對面せさせ玉ひ。軍の陣儀と迄  
むまらら。遠大軍と二方又分て。秀長ハ一の兵又向を  
せ玉ふ。然る不岩倉の城と守る。長秀我前掃部。徳と  
して防戦せしり。と。徳田孝高と係て。遂に城と乗取  
り。是ハ。城將掃部。幸うして。岩倉の圍と遁。大麻山  
逃上り。入岩尾又對面して。落城の事と釋。又禪るに。助六  
左衛門大又憤怒。我遠城は在り。款發万騎よまら  
とも。怖るべき。あくと。文子あり。謀計をもつて。麿辱せん。御



後藤智  
 火を放り防木を  
 焼へ入間尻却る  
 智水を澆る是を滅す

豊田記八編卷之二



豊田記八編卷之二

六

竟寧ふおへをべしと。主従と惣都て繞一慰ぬ。酒肴と饗  
 して疲勞を治しくり。开も此座を大原山へ。阿良才一  
 の教所として。後背の連山遠く濶及の地は通じ。要崖堅  
 固の山城として。古と守る大将へ。入る虎助古九条門  
 百貫といふ。智勇達練の名士あり。増て長谷我部掃部  
 預池加まりて。勢威最も博大あり。浩る不へ近に中納言  
 秀次卿岩倉破却の氣は乗じて。翌日直地小大原山を推  
 進る。そととるより。城將百貫預て防禦は備えざる。各  
 器ハ昂く貯えしと。バ。鎮却て候とも知らぬ。雲霞の如き  
 上方勢美くと進來り。禁は構えし柵麻角播と。乱草の如  
 く撃破り。魁ときそふて攻登る。進兵漸く近づく。去る。城

兵救十餘隊の上は露出。一尺量は勇屠する。麦藁竹箒と  
 各は又挾抱殺し。く抛下し。擲散を布どこそあは。地上四  
 五寸積上り。古と分とめ。又攻登る。上方勢の騎馬歩率  
 踴僵して足止らむ。惑乱まると。城各軍。啗かぐ。又煤例  
 へ。積貯する大木大石。輒零し。投下し。積根震ふて防禦を  
 去。これ又撃して進兵の元兵あるハ仰死し。あるハ俯癡  
 走。絶すて繞める強率猛士も。進まん。と走る途次矢をひ。  
 隸断と志は。退返。城各ハ視て。傍矢ひ。三遭返して。捷  
 固揚ると。後方兵を誘ふと。驗。爆燭として。大は。瞋り。噫  
 物く。像。城將や。唾壺。又。絆。く。量。の。智。を。揮。ふ。て。自。方。と。悩  
 毛。面。憎。さ。よ。率。余。城。將。が。計。強。は。傳。て。此。方。も。計。強。を。施。さ



但見まばいつの栄の底は火薬を灌貯せりとお布えて。  
 榮の中より燭燧出率然として焼杭き。余して后は城門  
 よう。幸丁むりり坂下は向柵車といふもの成推卸し款  
 推進る道路を塞ぎぬ。りその車はわくの如柵をつくり  
 中へ大石とつと延この車と鉄軸を並べた。是は仍て基次が  
 役々一工夫も從とあり。砲まで巧めりる亦名清も。小崎を  
 又手して忙然とけり。機會も仙石控名清秀久黒田が陣  
 投來り。勘解由孝高よりち對ひ。辭言と情て告るやう。  
 咱家臣は國形長左衛門といふる者あり。渠は此地の産  
 又して。當城内の虚実等を預め曉識しつ。今日吾は計て  
 禰らく。大麻の城中へ。山孤獨として地處高く。水脈と絡

る地なき由えは。城より西北の山谷はあり。五十餘丁の  
 險阻は穿入山腹の溪澗より。日お水と留得て來り。こ  
 せと夜食は充るべき。彼の水の路と遮る。晴は城中  
 うあは。難危は途ぐん。甚ともて攻勢の術と詭。臨さ  
 せ玉へと。言告然りといふ。急とも最初より。孝高は後忠  
 勤と抽んで。別て基次よく謀り。丹精勵力をあつもの。と。  
 水攻をもて料理つ。是孝高の切と。櫓は棄ふの嘲と云  
 け。且は後後倭の恨と惹んら。余はれは武門の瑕瑾と云  
 べ。不若遠縁と孝高は。懐らまく存せらる由急。此まで推  
 系ありと。信義宛金石より。堅くり。是と  
 聆より。孝高は。致遭感嘆あり。怯てこれと兼所が。不く

二なき大信友所は路して渥謝方此保寨と他の隊より  
 攻陥させ去る。亦名清とをとり。孝富が家臣併恨と啣と。  
 更又面目と失ふべし。道はありぬと秀久の懐と清て  
 水の隊より。攻蒐りゆふをへし。其報は孝富が關持する。  
 面門の攻潔は秀久又避りまわらせん。城將助六九束つ  
 へ。四國は名譽の勇將をば。毆拵らして雙なき勲切と  
 連玉と。迎は義之と盟合。その準儀はを造をれける

黒田探水路隔大麻山城 属 百貫銭死

子史の懸は移まべくとも。一言の義は勳をべうとむ。余  
 ほどは黒田勘解由次官考富へ。仙石秀久が信義をもて。  
 城中あり跡きと教指し。水路を断截て。城兵と困苦せし

めよと言されり。又計略を得て。是を後着基次は譚む  
 基次これと探略して。其水の路を搜り入り。皆通より攻  
 投らば。一晝夜して城と陥さん。若秀久が計儀と用え  
 る。一旬二旬は落城せまし。右も左も淹れ。任り  
 させよと諾交まじし。母里太兵衛は拵圖し。四百餘人  
 の強卒と幅与。三百挺の筒銃と付せし。謀略とに授け  
 つも。大麻山の西北あり。水鳥運ぶ蹊徑へ。情地は向をせ  
 たり。然して後着は去清り。昨日面門の板下は。柵車を推  
 卸させ。攻路の口と塞がれてより。若び工吏と繞廻して。  
 雲梯を作らしめ。彼柵車を踏超て。大麻山は沖投らんと。  
 最巧ましく。結構あり。今日母利太兵衛が符門の火の発



と合圖子雲梯と揮出さんと復後る有斯けるほどと母  
 利太長湯ハ基次ガ針織と清田百餘人の治率又三百挺  
 の多銃と拵とセ。山の禁と一里程岩洞の縁と傳ふて一  
 丘の瘦村又安出より此巷まで村長を召出し大麻山の  
 城中へ水と皆投徑路あるべし。高路と密岡と導指をべ  
 し。違命いとさべ腰又ある。我又たちまち汝們が頭と飛  
 さんいうとやいのると。最く嚴しくに厲る勢威さあが  
 ら怒狼の像く。方僅や命も失をえんうと。いと怖しう  
 至るほど。振ひあがら又是非なく諾ひ。路は精練惣吏と  
 もと。三四個加擔て。村長一齊導指を余布と又母利主後  
 村支俣又伴えりて嚴くく石炭と。剛登るうとととと。

涸く多る溜谷と盤濼て躡りつ。躡りつ。蔓屋又拵着掛根  
 又廻り。危崖峻岨と廻る布と。漸く城の背門ある。水  
 路又出てり。遙く岨の方と我行を。城率あまと擔桶  
 と荷ひ。山と下りて溪洞の水と汲んと。さら後背より。分  
 量と弑母利太長湯余ハ撃殺せと指揮する程。又懸  
 進。一。百餘挺の多銃一吐し。孔発せ。殼又庭して水扱弛  
 率。三。四。十人撃斃さ。溪底へ墜て死矢より。括残りたる  
 城率軍令。一。逃返ると。あは刺をなと。趾追慕ひ。多  
 銃撃起。逐寇させ。若もなく城の背方ある。園風側隣くふ  
 布と。一。百餘人の母利が治率。一吐し。突と。詰とつく。是  
 ば。谷又响き峯又響え。山も崩る。わたり又聆て。幾万



後藤基次  
五五材を  
組作らせし  
入間尻が防  
木御石と  
遮るむ

ともなき故軍の。此は乱入するに覺へて。城中さなごり  
 沸湯の如く。途方又惑ふて混乱を起す。備後後基次ハ背  
 方の暗号と待所。當日の己刻をうり。又到り。大麻の城  
 の後背に當り。詰の段の聆ゆるにぞ。おと母利太兵衛ハ  
 背方の城門近く推進し。路を因て攻進よと。造段ハ  
 雲の橋梁坂口へ推出し。墨安とる作材と。次取は舒し。そ  
 探出をどよ。数十輛の柵車。山と成る防禦の石と。接  
 ひをちまちと踏破。此時城の背方ある。太兵衛ハ隊の強  
 率ハ強し。防禦の依えもなき。背方の城戸と跳踰し。こ  
 城中に乱投。四方八面に火を放し。バ機會吹起。山風又火  
 勢熾し。燃熾ると。面方の基次。見るよりも。まをや薙と

と雷鳴一般。こづりら槍とおつ挺て。うの雲梯と近通り。  
 後又後基次ハ。大麻山の一番乗ぞ。続けなくと。吹り  
 く。面方の門と撃破り。大羅刹鬼の豹兇と。槍あらむら  
 りの怪猛力。人七人齋一。梯僵し。獨作し。最後左右に  
 蹴散し。踏去暴は虐て。地也と。バ。了得は。智勇の入る尻  
 も。掃頭も。碎易きに。從兵。安率ハ。這下の隈。那尾の隙に  
 追逼ら。と。撃とて。死を。輩致。知ま。然ども。勇猛絶倫の。入  
 る。尻。助六。左。束。つ。それ。又。者ら。ぬ。長。考。我。初。掃。頭。こ。づ。り  
 棟。器。捨。縛。て。追。投。故。と。追。拂。ひ。本。丸。へ。投。ら。ん。と。ま。ま。は。既  
 背。方。より。火。燃。弘。び。り。城。中。大。半。火。煙。は。單。まり。堪。也。べ。ふ  
 も。あ。り。ざ。ま。今。ハ。施。を。方。術。も。な。し。城。中。より。て。音。く。と。



二 捨綽馬茶二進む仙石勢と。蕪菁旁より。猶容易く。子翽  
 万流をらほども。胴と斬る。軍もあり。腰の番と離さる  
 るあり。手足と批きて。蝨の如く。轉却て。苦むあり。猛は近  
 せば。虎より暴く。勇は跳まば。龍より結く。六七遍をど。接  
 ぎは。是は。叙よも似む。仙石勢。右横左。後又。乱転。つ  
 逃下ると。指云。清秀。久大。怒り。蓬相。自兵の。挙止。死  
 神属。城会と。撃べき。去との。あらざる。の。逃。顔  
 る。と。ハ。鄙。怪。子。万。軍。ハ。斯。こ。を。做。も。の。な。れ。と。三。回。搦。の。陰  
 捨綽て。と。づ。う。う。正。斜。と。跑。記。と。バ。お。ま。が。と。め。は。城。兵。軍。  
 残。數。く。撃。滅。され。漸。く。大。騎。を。り。り。は。あ。ら。今。ハ。勿。く。秀。次  
 の。本。部。隊。へ。斬。投。こ。と。も。あ。り。が。と。う。り。遠。不。ま。で。出。と。ら

もの。な。ま。ば。切。て。一。方。の。敵。盾。と。破。り。一。の。穴。へ。退。入。て。這  
 連。の。耻。と。雪。ぐ。ん。もの。と。疲。武。者。と。懃。ま。し。進。め。斬。関。う。ん  
 と。ま。る。所。へ。仙。石。家。兵。双。の。勇。士。荒。木。頼。母。頭。重。則。自。勢。と  
 率。得。一。突。発。して。あ。は。城。將。と。逃。ま。べ。う。と。今。備。嚴。し。く  
 我。む。ん。ハ。自。軍。あ。り。と。て。容。赦。へ。せ。ト。軍。法。と。も。て。首。刎。ん。  
 ま。つ。と。敵。兵。と。撃。得。一。軍。ハ。切。り。準。と。て。賞。を。べ。し。跑。と。う  
 ろ。と。懃。し。く。指揮。を。し。一。進。は。馬。を。躍。ら。せ。滄。ハ。さ。ふ。が  
 ら。憤。龍。の。怒。咆。の。雲。は。狂。ひ。水。は。奔。る。は。吳。あ。ら。む。面。ハ。觸  
 ら。む。肺。ハ。退。り。む。敵。の。強。弱。も。撰。む。こ。そ。撃。つ。毆。と。つ。根  
 限。り。精。力。秘。術。の。あ。ら。ん。長。と。這。期。は。是。し。て。戦。ふ。と。り。時  
 二 城。將。入。り。尻。助。六。左。衛。門。百。貫。ハ。荒。木。頼。母。が。激。指。と。し

て。這款へ是召は冥途と導むべき勇士あり。斬てハ此場  
 と退りまじ。只願くハ掃部頭と。助けて遁行らんもの  
 と。敵強き方とこづり。引領怯める方ハ掃部と廻して。  
 先や勝負と一声叫び。荒木頼母は破て暮る。百貫高日の  
 打扮ハ百韃百練一とりのふ。崑崙練の大遣と。朽葉庭  
 の糸もて織して。百貫胴と号けらる。草摺長と髭と被  
 降し。龍牙は柳壺の面標おくら。弓筋盛と拖衣き。七寸は  
 餘る。彌獨。赤白混し合せらる。大緯棋と茶後。被散優  
 量義と雲羅。線色し。る大當標と雲倒をり。一標柳  
 一。四尺五寸の太刀と劈甲は警懸し。荒木頼母は破て暮  
 る。這士も兵族の勇士おと。得らりと喚て構り合。柳陰

先ハ爆火は等しく。圓く太刀ハ狂波の如く。浮沈進退虚  
 虚实く。因つ合せつ。巴字万字。師は秘密の術と場セハ。勝  
 放いつりの果べらも看ざりらる。荒木頼母原來政陰  
 の妙と得とせ。入る尻と欺むらんと。激昂て抛らる。卒  
 の陰ハ。入る尻の被らる。盛の八幡座を掠るとおえ一が。  
 背頭は負らる。當標の正中央へ抛る。助六は来つ。謀  
 らる。とハ秋毫織らぬ。荒木が抛らる。陰奪と。推捉  
 整して。柳菟る。荒木頼母ハ恒た。馬と返して。逃出を。  
 遁さ。トものと。逐逼て。危や頼母ハ只一突よと。視る際も  
 あら。せむ。百貫が。突出。陰先くら。際ハ。電光石火より。疾  
 く。佩らる。太刀と。掣。半も。秀。せど。丁度。撃らる。太刀。腕ハ。入

尻が膝より。尾の辺まで破逆り。これ又何うの堪  
 るべき。馬より撞と落る所と。荒木も同く馬より跳卸  
 首搔頭て大音発。大麻山の城主。入る尻助六左衛門百貫  
 と。仙石の家臣荒木頼母が毆捉り。呼をら声は城名  
 輩。今へたや至此ありと。踏逆り。残りなく。戦死してそ  
 果より。信長が我を掃頭。獅子奮迅の猛威と顯  
 一。難なく一方と破破り。自方へいり。と顔は。僅二  
 騎の。眼は従ふ。それさ。百癩千瘡。赤はあつて  
 あり。ろろろ。小息時と堆き。圖は。陣りて。戦場を倍と賣て  
 行。荒木が秘計。入る尻。哀とや撃と。ろろろ。も。掃  
 頭も。心と決。响。方。僅。虎。は。と。遁。出。り。と。も。入。る。尻。と

と。故。又。毆。と。自。兵。も。亦。汝。倫。の。も。あり。亦。又。面。目。は。一。の。文  
 へ。や。ろ。ろ。ろ。る。べき。取。て。返。り。て。潔。く。戦。死。の。外。あ。る。べ。り。と。ぞ  
 と。怒。眼。は。濛。く。血。の。泪。ハ。紅。女。は。軍。り。る。珠。の。如。く。齒。と。唾  
 喝。し。て。牽。返。さん。と。も。二。後。士。大。は。練。止。り。て。無。態。は。右  
 の。纏。を。把。り。馬。と。追。犯。馳。り。る。と。こ。ろ。え。仙。石。の。兵。士。表。し  
 と。掃。頭。と。存。び。推。提。圍。む。然。ど。も。屈。せ。ま。接。返。り。も。か。へ  
 一。里。餘。町。の。山。路。と。七。八。遭。す。と。追。返。り。二。騎。の。従。兵。も  
 ち。や。我。死。ふ。一。卒。と。一。只。單。騎。士。列。と。高。て。退。行。り。り。期。て  
 黒。田。孝。高。ハ。大。麻。山。の。城。と。攻。拔。城。中。残。ら。む。燒。き。凱。歌  
 と。唱。へ。て。静。く。と。秀。次。卿。の。本。陣。へ。投。束。る。と。仙。石。ハ。城。將  
 百。貫。と。誓。の。も。あ。ら。む。と。故。首。級。多。と。富。ら。し。て。本。陣。は。い。り

来り。大将の實檢は俱りし。今日の切は悪田仙石勝勢  
ありとぞ賞美せらるぬ

兩軍四軍辨加一宮関大合戦 属 秀長危難

博大有りふ豊公の武威四国と次弟は乗取こと斯の  
如し。遠國縦令列國の四豪魏の信陵趙の平原奔の孟嘗  
楚の春申ともて守らむとも。いりてり持果をべきと  
とと得んや。然れども大和大納言秀長卿は三万余騎  
の軍勢と進め。八月十日の卯の暁天甲冑干戈を揮いて  
阿良一の宮へ推進せ玉ひ。一時は攻逼城と取らんとす  
といえども。城地は名は負勝境あり。主將は智勇の谷忠  
兵清軌信に村孫左衛門景宗と。容易陥べし。秀長は

是バ。蜂須賀半が勅めは周て井樓と組柵と固ふ。堅  
固は陣取をりまへり。城は其夜故と謀て夜撃と絶  
るといふといへとも。蜂須賀一柵倚きびく拒抗で谷  
忠兵清と返返す。去ららの合戦義次。上方勢の勝利な  
るゆえ白地は在り。大将元親組馬ともて信託と名一  
の宮へ後逼し。秀次とと等しく。北方より  
小西と留守あさし。悪田と初大半は。秀長卿の御陣へ  
加へぬ。然るは一夜小西行長軍法は背て取殿としり  
が。却て款の孫略は陷院ら。塵はもあまき志り。と。  
悪田蜂須賀とを救ふて。辛くも退陣あり。ゆえ。  
長痛く判めらる。て。面目あげはひり。時秀長は

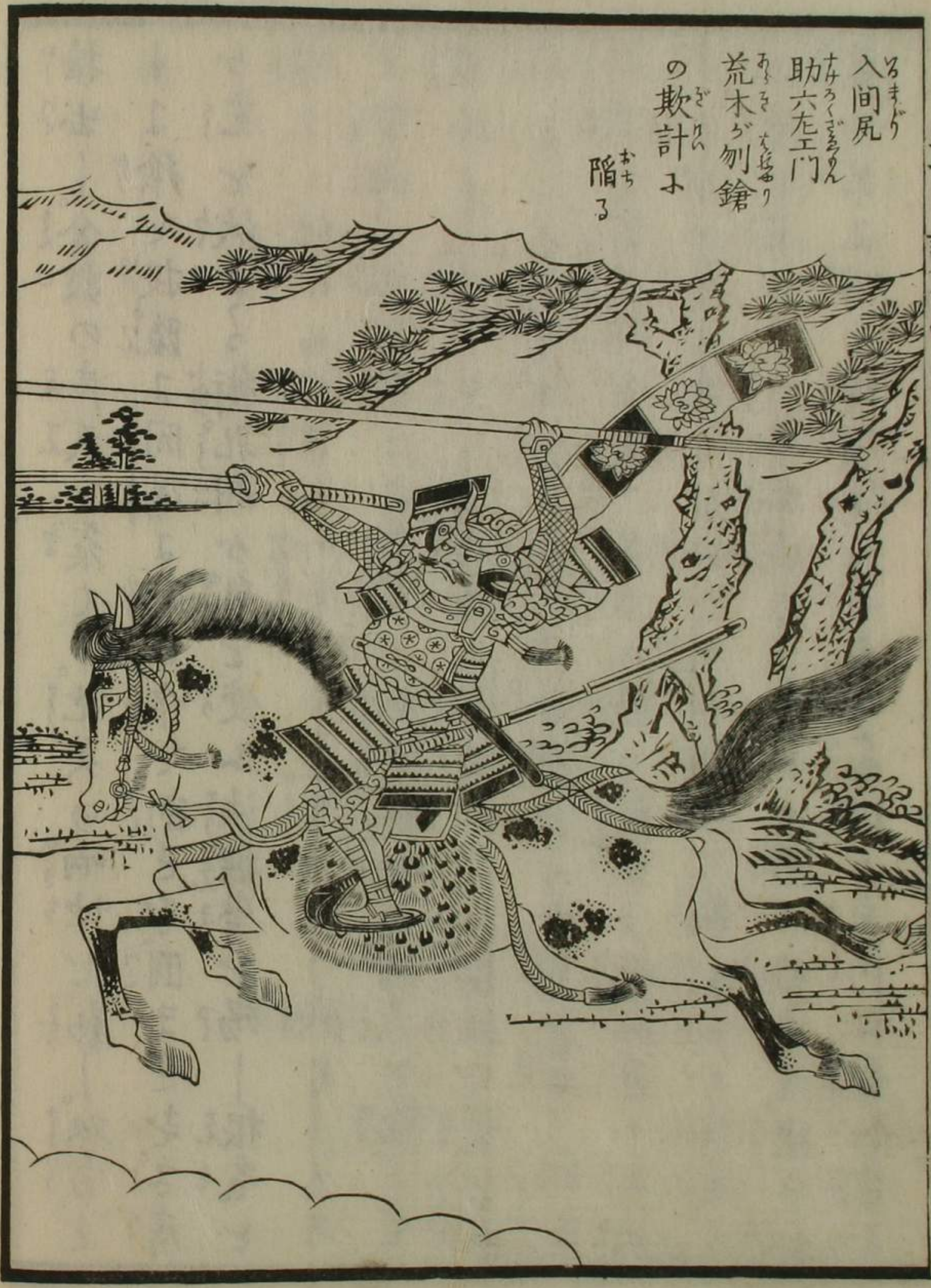


將と集め軍後の序を闡り是けるが、田孝富進といで、  
 今兩軍加勢と信託の援と察る。強く我ふ時、やあ  
 りあん。然れれば、總軍一度、又砲て有云の、一我、又迄むせ  
 らど、敵將のうち谷に村いづきありとも。捉擒とあり面  
 背、又固て謀役べしと稟呈る。又、降須賀も、這理もつとも  
 上策ありと同意し、是は、大將も、強、又然あ、人とお付  
 しめさど、連時、又合戦の準備せり。備城中、は、谷に村ま  
 と外陣、は、長考、我が信親、逸、又軍後、と、謀交し、先敗し、と  
 る、上方勢、は、臆病神の、離れぬうち、推進て、撃散さんと、准  
 佐の、所へ、黒田、降須賀、一、柳、一、隊、く、く、又、次第、と、行て、城下  
 へ、集と、推進る。城中、は、も、期し、こり、り、を、は、同、く、隊、伍、と

推出し、金鼓の声、天と震えし。砲矢の响地と勃し。双方と  
 も、又、鎗と、投、陸、は、因、陽、は、因、き、中、と、割、と、む、困、ま、し、む、子、房  
 が、虎と、伏、む、術、孔明、が、鬼、と、使、ふ、法、練、磨、と、場、一、根、氣、と  
 懋、ま、し、他、軍、も、自、方、も、一、足、退、り、む、撃、も、あり、殿、る、も、あ  
 り、撃、掃、で、首、と、扱、も、あり。或、は、相、撃、刺、番、え、焰、火、と、散、し、て  
 我、ふ、り、浩、る、不、は、降、須、賀、の、陣、中、より、小、撥、滅、の、雲、裾、濃  
 ま、さ、し、る、澄、挑、形、は、三、光、の、面、標、打、ら、る、甲、と、忌、し、鶴、毛  
 の、馬、は、雲、臥、鞍、安、せ、十、文、字、の、陰、と、茫、長、は、推、俚、身、の、長、六  
 尺、有、徐、の、勇、士、旋、風、の、如、く、馬、と、進、ま、せ、鞍、笠、言、く、突、起、て。  
 破、滝、は、等、し、き、大、音、拳、遠、り、人、故、は、耳、は、徹、え、よ、近、き、奴  
 輩、は、目、は、怖、し、峰、須、賀、彦、去、弟、つ、家、政、が、自、内、は、長、は、お、の



入間尻  
 助六左エ門  
 荒木が刃鎗  
 の欺計かぎに  
 陥おちる



勇が一子半三郎刻房あり。城將に村谷の兩人いづれ  
 ありとも見糸せん。号惹つ。馬と躍らせ。群る款の正  
 中へ吐咆の如く擲て入り。千面万角ある。任せ難。斫  
 伏叩起。人あき所と弛るが如く。血烟結く。攻惹々。是バ。去  
 是。又。継て。稲田青山河口。梶田日比野。松原。長。は。と。撃。ま。あ  
 快進め。と。崩山。溢水。の。勢。あ。り。ま。は。も。く。と。進。ど。り。江。村  
 堂より。て。あ。く。あ。る。長。は。が。大。膽。の。傑。我。と。着。て。憎。き。小。壺  
 が。我。相。り。あ。先。く。渠。奴。が。首。扭。頑。て。款。名。の。肝。と。冷。て。く  
 と。んと。大。荒。目。の。遣。の。上。は。青。地。の。綿。の。戦。外。套。と。着。し。烏  
 帽。子。形。の。薄。兜。の。須。と。紫。と。緘。整。し。三。尺。八。寸。の。順。刀。の。鞆  
 打。鞆。卷。一。奔。は。勘。と。混。じ。て。嚼。濕。し。隻。上。段。は。ふ。り。う。ざ。し。

是。は。に。村。孫。左。衛。門。の。旗。下。は。お。ひ。て。吉。良。左。衛。門。つ。恭  
 徳。あり。長。は。刻。房。そ。て。勅。く。ふ。と。撃。て。跑。る。と。得。と。ら。ハ。恭  
 徳。汝。が。首。ハ。佚。あり。や。石。あり。や。佚。石。も。よ。く。擲。傲。ま。ま。ら  
 喰。食。ふ。て。修。羅。界。の。結。の。種。ま。せ。よ。う。し。と。いた。せ。も。起。ま  
 夷。衣。束。つ。明星。の。像。ま。眼。と。瞋。ら。し。舌。賢。く。も。吼。嘯。と。り。先  
 その。唇。唇。裂。く。と。んと。一。喝。叫。んで。斬。る。長。は。も。同。く  
 発。声。と。り。け。槍。と。槍。と。互。り。合。一。上。一。下。修。練。の。突。我。胸。前  
 橋。んと。晃。ま。槍。の。尖。頭。ハ。鉞。山。河。原。の。腰。より。出。る。電。光  
 の。地。上。と。走。る。又。矢。あ。ら。む。然。ま。ど。も。吉。良。ハ。物。と。も。せ。む。  
 受。流。して。赤。赤。拂。ひ。連。は。找。む。双。の。光。ハ。鳴。戸。は。映。る。月。鏡  
 の。波。の。健。く。狂。ふ。又。似。し。り。安。ふ。赤。込。窓。の。太。刀。あり。危。く

棚出虚の捨ありて。戦車もつとも奇く怪く。わうごあり  
 りん夷ちあつ。長にが捨と受はり。右の脛へ突込まじり。  
 強膽の右良也も怪まむ。其采捨と眩眩又たさる。臂甲微  
 塵又次込大刀狭捺尻と揚て丁度受止腰操倚せて無匹  
 と柝二勇の力又馬蹄もさまらむ。鞍傾け右良長に両  
 馬が膝又撞とおち。霎時ハ扭合在り。一捨受らる夷  
 右あつ。怪むとあると半之を。遂又柝布首搔隘し。馬ひき  
 遠して騎らんとまると。に村黨の城名輩。長にと刺まふ  
 扨捉と。群進と半三郎速くも馬又跳乗て。隻頬又笑ふ  
 し。女們も借夷と。同トく冥途の導ふさん。先や来とと  
 柝紀く。傑戦し。猛勇又面と向べき故もな。怖振

ふて逃走る。に村孫ちあつ。こととあて。強又怖し。壯哉  
 者らあ。各銃をもて撃捉と。指揮も早らぬ後路より。各忠  
 名あが。一隊仕續く。又あつて頼紀。これい。わうよとあて  
 やと。バ。馬回が軍勢不意と撃て。各忠名清分横合より。路  
 ちまき山と跑下り。八百余人攻込ぐり。これ又周て谷の軍  
 勢一堪もなく。に村が陣へ輝く。孫ちあつ。救まん  
 とをさ。バ。長にと初め。稲田青山の峰須賀意励しく接紀  
 攻急り。谷もに村も途と失ふ。城へ退入と。もあ  
 む。い。亦信親と一隊又あ。びき路も絶り。九死一生  
 の苦戦して。いと危くあ。り。加勢の副将熊谷四郎  
 左衛門。呼城名と助くべ。と。推葵さんとあ。り。と。大

豊田記

川五

將信親制して曰く。今城名と救ちんとせば。自方却て推  
 顔させ。総攻軍又遠ぶべし。殊に秀長秀次併後路と單  
 で撃ちよる。最も自方の大害あり。汝們一隊より力と勤  
 て。秀長が陣と破るべし。然されば。故名大将の身は心牽  
 して。崩記せんこと必定あり。是一大軍の合戦あらざ。を  
 げめくと指揮しつる。信親采配お揮く。正一門地は  
 弛出せば。南蠻鉄の遣の袖と。緝地綿の直正袍と。風と啼  
 で翻り。榮塚像の銀兜も。仰ぐむり。秀長が本陣さ  
 て。猛入りつと。牽繼て。熊谷勝直。近來は。や丈八の。二尖  
 槍も。面倒ありと。綱と半分濟交する。十八貫目の棒振  
 匣。突然として。攻投りよる。本陣忽地崩起さんぐ。千

ち。あつて。乱走を。堀仙。石。侘も。志ば。しが。布ど。へ。遮。戦。ふ。とい  
 へども。信親。猛奮。狂怒。して。接。起。く。と。吹。散。を。中。よ。も。熊。谷  
 四。希。を。束。つ。飢。勝。が。免。猿。と。追。搦。る。より。猶。怖。し。き。眼。して。  
 秀。長。の。本。陣。へ。走。入。り。只。顧。大。將。と。撃。止。め。んと。東。西。又。盾  
 南。北。又。猛。り。嗷。叫。で。鼓。起。せ。ば。秀。長。も。今。の。堪。り。兼。馬。又。鞭  
 う。ち。双。拍。の。と。て。後。の。山。へ。逃。ら。る。と。熊。谷。速。く。も。跟。逐  
 逼。て。これ。へ。大。將。大。納。言。秀。長。と。お。と。へ。僻。目。り。故。又。後。と  
 秀。セ。五。ふ。へ。羽。柴。の。家。の。名。朽。あ。ら。む。や。返。り。く。して。勝負  
 一。五。え。斯。の。ふ。响。へ。熊。谷。四。希。を。束。つ。勝。直。あり。と。活。樹。も  
 振。倒。る。と。ち。り。りの。大。音。あげ。逐。跑。來。る。その。際。藩。稍。十。步  
 よ。ひ。さ。ざ。り。り。と。ば。免。や。熊。谷。が。練。枝。の。下。に。懸。竹。さ。ら。べ

豊臣評八編卷之六

十一

ふ秀えとら 取ら。仙石助兵衛見系と。取て返して遮り。  
 熊谷大と怒をとつ。愕くも遮断する。奴ら亦大持の傷  
 あり其路去と。棒横さぬ又拂ひ去る。助兵衛も亦無双  
 の勇士。逐つ返一つ戦ふ。鬼ふりりり秀長卿。其の  
 際又辛き命と撰ふて。山徑傳ひ又逃遁り。銀又へ仙石  
 熊谷が。火水となつて。兼ふ取と。推兵衛秀久をりり秀  
 て。呼く彼取又圍互る。浪の花車の。齒際。黄糸織の。襪被  
 ころ。た。慥又仙石助兵衛あり。快く投げよ。毆をなと。指揮  
 する声の。早らぬ。二百余人突跑る。熊谷後目。去と  
 看て。行。呼。勝。断。し。や。遠。檻。松。兎。也。え。大。持。の。敵。を。逃。し。り。  
 切て。汝と。胆。愈。よ。と。勇。気。と。烈。ま。し。継。お。よ。三。四。度。勅。く。お

足と。愛と。太刀の。獨根より。拂蹶と。折て。壁も。揺らむ。  
 頭と。微塵。又。撃。碎。り。也。馬。より。落て。ぞ。死。ぐ。り。り。浩。る。お  
 え。仙石秀久。馳。急。す。熊谷と。表。く。と。推。捉。圍。も。殊。を。ま  
 いと。攻。戦。ふ。四。方。左。右。の。勝。直。も。身。疾。る。あ。ら。ざ。り。馬  
 も。主。も。大。に。疲。れ。流。傷。あ。ら。ず。も。致。り。取。ら。ぬ。負。い。と。く。あ  
 や。ふ。り。り。り。と。信。親。徳。方。の。敵。と。逐。去。四。方。と。儼。と。視。画  
 去。ら。山。方。又。合。戦。の。あ。る。相。あり。殊。に。熊。谷。の。視。え。さ。る。ハ。  
 意。惱。し。と。飛。が。如。く。又。池。來。り。看。ま。は。遠。り。バ。四。方。左。右  
 の。危。急。の。軍。あり。在。り。り。也。え。仙石勢を。斬。去。退。去。経。あ。く  
 熊谷と。救。出。し。凜。然。と。し。て。引。退。く。佐。兵。衛。四。降。銃。撃。後。を。  
 一文の。城。壁。と。乘。取。べ。し。と。三。將。一。度。又。谷。江。村。と。遊。撃。し

つも。城は向ふて投殺らんとす。然ども所及才一の堅城  
 亦は。容易く登得がとき換會しも。秀長々の御本陣へ。  
 敵將信親礼入して。大将へ戦死し玉ふ。などいふ流言の  
 驗えりりゆえ。法將大は警備あり。城と奔て取て返す。是  
 一氣と得て谷に村。再度山と近下し。八角十方へ近散ら  
 せ。了得の悪田峰頭賀も。隊伍と礼して散走しりり。が。  
 漸く。ふして一隊の。列行と儼と立誓し。於一戦と挑  
 まんとまり。日輪西海に沈み至る。朽憾りともも退  
 去りり。遠後双方對陣して。合戦ハ累日休よりり

繪本豊臣勲切紀八編卷之八了

